

I. 会社概要

1. 会社の名称	株式会社 藤田ワークス
2. 本社所在地	鹿児島県霧島市国分上野原テクノパーク11番27号
3. 電話番号	0995-46-6100
4. URL	http://www.fujitaworks.com
5. 設立年月日	昭和20年4月
6. 資本金	1000万円
7. 上場の有無(店頭/2部)	無
8. 業種・業態	精密板金加工
9. 代表者名(年齢)	藤田 康路(44)
10. 情報戦略責任者名(年齢、役職)	藤田 康路(44、代表取締役)
11. 直近の売上高(百万円、年)	1,203
その1年前の売上高(百万円)	1,215
その2年前の売上高(百万円)	809
12. 直近の経常利益額(百万円、年)	211(2005年)
その1年前の経常利益額(百万円)	204
その2年前の経常利益額(百万円)	47
13. 現在の従業員数(うち社員数、年)	94(52、2005年)
その1年前の従業員数(うち社員数)	82(48)
その2年前の従業員数(うち社員数)	88(48)
14. IT部門の有無(名称)	有(IM推進室)
15. IT部門の責任者名(年齢、役職)	濱畑 秀敏(30歳、主任)
16. IT部門の人数(うち社員数)	1名(1)
17. 直近のIT関連の年間費用(人件費も含む、百万円、年)	45
その1年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	10
その2年前のIT関連の年間費用(人件費含む、百万円)	8

平成18年度IT経営百選応募記入シート(2/2)

株式会社 藤田ワークス

18. 事業・商品・サービス内容	<p>精密板金の設計～製作～組立まで一貫生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精密板金加工(ステンレス, 鉄, アルミ) ※加工可能板厚 0.05mm～25mm ・医療機器装置部品加工 ・半導体装置部品加工 ・クリーンルーム仕様治工具(台車, 棚等) ・化学プラント装置部品加工(チタン, ニッケル) ・液晶装置部品加工 ・省力機器装置部品加工 ・食品関連装置部品加工 ・環境関連装置部品加工 <p>半導体装置メーカ(57.4%)、化学プラント関連メーカ(18.4%)、省力機器メーカ(6.6%)、その他(17/6%)</p>
19. ビジネスの特徴	
① 強み	<ul style="list-style-type: none"> ・プレス板金から精密板金への転換、半導体市場、化学プラント市場ともニッチ分野で新規参入障壁が比較的低いところへの進出、その中でも薄板精密板金に特化している。 ・価格競争路線を避け、品質追求による安心と発想の転換によるコストダウンを進めてきた。 ・弁護士、税理士、社会保険労務士など専門の顧問を持ち、大手企業と対等に取引を行っている ・健全な財務体質(税務署より是認通知書を受領) ・基礎技術、加工技術を積み上げ、他社ではできない技術を保有している(特許有)
② 付加価値	<ul style="list-style-type: none"> ・客先クレームに対する対応基準(クレーム123運動)を設け翌日対応を行っている ・お客様の研究・開発・試作までをお客様の職場感覚で利用していただく「お客様の職場」を当社の敷地内で共同作業によって行っている。 ・6σ管理やMAIC活動によって品質のレベルアップを図っている。 ・他社に抜きん出た厳しい品質管理により、製品品質のレベルアップ、コスト削減にもつながっている。 ・業界No.1シェアを持つT社より、取引先170社中1位の評価。
③ こだわり	<ul style="list-style-type: none"> ・大手メーカとの直接取引によって対等およびリードした立場で提案型ビジネスを展開している。 ・ユーザーフレンドリー お客様のお客様にまで喜んでいただくこだわり。 ・Only One企業を目指す中、高精度精密板金の業界にあって、薄板材料、ステンレス、チタン、ニッケルのレア材料加工を中心に、装置産業メーカ、化学プラントメーカへ特化した円行戦略を展開している。 ・日本経営品質の4つの基本的な考え方(顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和)に基づいた経営品質向上の活動を展開している。 ・経営をオープンにして全員参加の経営を行っている。 ・ISOを含め、資格取得よりも実質にこだわった運用を徹底している。(ISO9001は板金加工業界2番目に取得)
④ 独自性	<ul style="list-style-type: none"> ・設備メーカーのドイツのトルンプ社からはレーザー加工機などのアドバイス面を評価されゴールドカスタマーの称号を得る関係となっている。 ・オリジン電気社との共同開発で、異種金属の5層同時接合システム開発について協力し、製法特許を取得した。 ・グループカンパニー制を導入し、各グループで独自採算方式を取っている。

Ⅱ. 自己評価表1/2(ビジネス戦略・経営改革の視点)

会社名 株式会社 藤田ワークス

1 ビジネス戦略・経営改革の視点	評価を行なうに当たっての具体的事実
①業績の好調さ	<ul style="list-style-type: none"> ・2002年より4年連続増益となった ・2005年度の経常利益率が16%以上となった ・2006年度の経常利益率が15%を越える見込み ・鹿児島銀行 行内格付け B2
②ビジネスモデル	<p>Only One企業を目指す中、高精度精密板金の業界にあって、薄板材料、ステンレス、チタン、ニッケルのレア材料加工を中心に、装置産業メーカ、化学プラントメーカへ特化した円行戦略を展開している。この活動では、主要顧客の絞込みを行い、世界トップシェアのお客様との直接取引を行い、ユーザーの競合他社(同業者)比較では総合1位を97%のお客様で実証している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競合他社順位指標(100ですべての主要顧客順位1位)97ポイント ・顧客満足度 82.2ポイント(100ポイント満点) ・高品質(客先流出不良発生)0.0041%…6Σ管理の概念 ・クレーム123運動によるクレーム対応基準…不具合発生時の翌日完全対応 ・総合評価として、元気のあるモノづくり企業300選に選ばれた ・絶えずベンチマーキングを行い他者にまねのできない品質基準にこだわっている
③経営の自立化	<p>大手メーカとの直接取引によって提案型ビジネスを展開し、前項の評価につながっている。半導体業界の割合は高いものの成長産業への進出及び業界変化予測をあらゆるチャネルから収集・分析し、中期事業計画を策定し、2期連続で計画を上回る実績を示している。</p> <p>その結果、自己資本比率の改善が著しく、堅調に推移している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己資本比率30%超 ・2期連続中期事業計画達成率120%超 ・売上構成の70%が大手メーカ4社(一部上場企業、世界トップシェア企業)
④経営のオープン化	<p>当社はグループカンパニー制によって営まれており、組織的にもグループ採算性によって管理されている。その中で、財務の透明性、密室の協議の廃止、人事育成評価など経営のオープンに対する取り組みを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ収支報告を毎月発信、年度決算内容も全社員へ公表している。(財務) ・会議議事録、出張報告などのグループウェアによる情報開示(密室の廃止) ・月例全体ミーティングによる全社員への報告会(全グループの発表会) ・人事評価の評価基準のオープン化による公平性の遵守 ・年2回のビジネスパートナー(協力企業)への生産動向説明会及び交流会の実施 ・新システム(経営戦略支援システム)による分析支援及び見える化の促進 ・お客様へ対する情報揭示
⑤満足度経営	<p>当社は、日本経営品質の4つの基本的な考え方に基づいた経営品質向上の活動を展開している。その中において、顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和それぞれの満足度向上の評価を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿児島県経営品質賞 優秀賞受賞 ・CS(顧客満足度調査結果)82.2ポイント、競合他社比較97ポイント ・ES(社員満足度調査結果)67ポイント…毎年向上傾向を示す ・BPS(ビジネスパートナー満足度調査結果)80ポイント ・旧国分市より産業経済功労賞を受賞(2004年) ・ISO14001認証取得準備中(2006年12月受審予定)…地域、業界環境対応 ・お客様がお客様の営業ツールとして当社を使っている。 ・社会貢献活動として、「こざい大作戦」、「花いっぱい運動」、産業フェアへの出展、工業高校の工場見学受入、障害者の積極採用などを行っている。 ・有休消化を奨励しており、約80%の取得率

Ⅱ. 自己評価表2/2(IT高度活用の視点)

会社名 株式会社 藤田ワークス

2 IT高度活用の視点	評価を行なうに当たったの具体的事実
<p>①コミュニケーション</p>	<p>当社は、1996年よりIT武装による情報マネジメント体制を強化してきた。イントラネットの配備では社員一人当たりパソコン普及台数も1.38台となっており、業界内では高い数値となっている。コミュニケーションはフェースtoフェースによる対応を原則としている中で、ITの活用によるコミュニケーション不足を補完する位置付けとして定着しているといえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員全員が電子メールが利用できるようになっている。 ・外出先からでも、社内のグループウェアにアクセスし電子メール、その他の情報の共有が行えるようになっている。 ・「掲示板」、「質問・意見箱」などを電子化し、その場を利用して、誰でも情報の発信、意見の交換を行うことができる。 ・議事録、出張報告等の記録を電子化し、全部門で検索閲覧できるようになっている。 ・工場内、事務所など社内どこにいても、連絡を取り合えるような仕組みがある。 ・打ち合わせ議事録、出張報告、日報等を全部門に公開し情報の共有を図っている。
<p>②営業・マーケティングの改革・新商品や新サービス開発への活用</p>	<p>当社は、「お客様の職場」という環境提供を行っている。その中では、設計ツール(板金CADなど)、EDI、図面配信システムなど、グループカンパニー制の強みを活かし、IT面を含めお客様と同等の環境構築を実施し、同一次元での対話を行うことを重視している。また、営業情報の分析など営業戦略につながる情報を生産プロセスを含めて行うことで戦略策定につなげている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客先ツールと同等の環境整備(EDI、図面配信システム、CADなど) ・グループカンパニー制の中で、グループ長が外出先で社内と同様の判断が行えるための情報提供の仕組み ・営業マーケティング情報の分析などや生産プロセスから得られる情報など戦略の策定に反映している。
<p>③プロセスの高度化・連携</p>	<p>当社の高精度精密板金加工は展開設計がコア・コンピタンスといえる。その中で3DCADの役割は重要であり、モノづくり現場でも複雑化する形状の製品に対して、やさしい設計からビューアによる3Dモデルの閲覧が可能となっている。また、事務処理の多様化に伴い効率アップの観点からシステムの見直しを行い、社員からの直接ヒヤリングによって要望書をまとめ新システム構想の設計に反映させた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3DCAD・CAMシステムによる板金CADシステムの構築(2003年度) ・2006年度より新たな生産管理システムを構築し、プロセスの改善を行った。本システムは経済産業局の「IT活用型経営革新モデル事業」に採択されている。 ・製品の受注から出荷まで様々なツールを利用して生産管理を行っていたが、新しくシステムを構築し、見直しを行ったことでこれらが一元化され各工程間の連携がスムーズとなった。 ・お客様と同等の環境を持つことで、プロセスの連携がスムーズ
<p>④人材・ノウハウの高度活用・高度な経営管理への活用</p>	<p>当社の人材活用のベースは、マネジメント力とものづくり(匠)の向上といえる。マネジメント力向上では、専門性を発揮するための3役体制(財務・生産・品質)による強化をすすけている。ものづくり力では、グループカンパニー制によるニッチ技術の追求による強化を進めている。これらは、ISO9001の品質マネジメントシステムのハイレベルな活用によって企業文化化している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3役体制による専門性からのマネジメント力強化(財務体質強化、300選など) ・定期的な顧客訪問により得た情報を、データベースに登録し、全社員に公開している。 ・教育・研修の履歴や報告書をデータベース化して全社員に公開し、情報の共有を行っている。(スキルズインベントリ)
<p>⑤情報セキュリティ対策</p>	<p>情報セキュリティでは、お客様情報及び個人情報など電子媒体化されたものに対するセキュリティについては開示制約などのセキュリティをはじめとした対応を実施している。また、人的要因に関しては誓約書による機密保持を契約し、外部への漏洩に対する対策も実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誓約書による人的対応 ・ウイルス対策等セキュリティ対策を一元管理している ・サーバーのハードディスクはRAID構成になっており、安全性の向上を図っている ・日次単位でDATにバックアップを行っている ・施錠可能なサーバールームを設置している ・セキュリティポリシーを作成している ・無停電電源装置を各サーバーに接続し、安全性を高めている